

学術、地域貢献で連携

県立大と岡山理科大協定

県立大(総社市窪木)と岡山理科大(岡山市北区理大町)は27日、学術面や地域社会貢献など幅広い分野で連携、協力する包括協定を結んだ。

協定は、学術研究▽学生、教職員の相互交流▽地域、国際社会の発展への貢献▽産学官連携―などの項目。岡山理科大は、県立大を



代表とした産学官連携組織「おかもまCOC+推進協議会」メンバーでもあり、両大は同協議会を基盤に、より

深く連携を図る。

県立大でこの日、同大の辻英明学長と岡山理科大の柳沢康信学長が協定書に署名した。

辻学長は「ワイン醸造をはじめ食品開発や科学技術開発、経営、デザインなど多方面で連携を深め、

大学の力を磨きたい」、

柳沢学長は「地域に貢献できる人

包括協定に署名し握手を交わす辻学長(左)と柳沢学長

材育成のノウハウなど互いの強みを生かした交流で切磋琢磨できることを期待している」と述べた。県立大が国内の大学と同様の協定を結ぶのは初めて。(古川和宏)